

秋季総合コアプログラムが開催されました

秋季総合コアプログラムが9月20日(土)に開催されました。このプログラムは、総合的・学際的な感性・理解力の養成を目的として、春と秋の2回実施する講義です。院生はもちろん、専任教員も全員参加し、学際的テーマを設定して討論を行います。今回は、修了生による特別講演1題と専任教員による研究発表1題でした。



はじめに平成17年度博士前期課程修了の古田大貴さんが講演を行いました。タイトルは「薬品の製造研究と東日本大震災を経験して」でした。

薬品の製造研究とは、工場生産時における安全性や操作性、品質やコストなどの問題点を洗い出し、改善・改良の方法を研究することです。聞き慣れない製造研究の実態を、具体的事例を挙げて紹介していただきました。

古田さんが勤務する純正化学株式会社は東日本大震災と福島第一原発事故によって、大熊町にある生産拠点工場を失いました。講演の後半では、震災当時の様子や復興への取り組みを話していただきました。

工場生産時にトラブルが発生すると、会社へのダメージは大きいものがあります。そうならないよう、製造研究段階で十分な検討をすることは、まさに縁の下の力持ちのような仕事です。今回の講演では、多くの苦労があることを知ることができました。



次に志村ゆず先生が講演を行いました。タイトルは「ライフレビュー法に関する研究」でした。

ライフレビュー法とは、幼児期から老年期に至る思い出を個別面接などによって振り返る方法です。グループで行う回想法よりも複雑でより深い話を展開できる特徴があり、人生満足度や主観的幸福感が向上したり、抑うつ症状が改善する効果が報告されています。



「“死期が近づくとライフレビューをされる方が多い”のであって、“ライフレビューをすると死期が近づく”わけではありません。」との説明に、笑いが起こる場面も。



講演では今までに効果があったとされているライフレビュー法について、主に海外の研究成果を紹介していただきました。

「人生90年時代」の到来が現実的になる中で、いかに身体や心の健康に対処していくかは大きなテーマです。ライフレビュー法がその一助になることが期待されます。

